

資料館だより

企画・編集 国立ハンセン病資料館

発行 公益財団法人
日本科学技術振興財団

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13

電話 042-396-2909

FAX 042-396-2981

URL <http://www.hansen-dis.jp>

一九九三年の開館の日に合わせて 開館20周年記念式典開催さる

6月25日(火)、当館映像ホールにて開館20周年記念式典が挙行された。司会の黒尾和久当館学芸課長による開会の辞に続き、成田稔館長および矢島鉄也厚生労働省健康局長より主催者挨拶があった。

成田館長は、ハンセン病をめぐる無知とそれを支える「イエ」や「世間」の問題とを指摘し、本当の名誉回復のために今後とも活動の幅を広げたい、館の発展に引き続き支援をお願いしたいと述べた。次に矢島健康局長より、誤った隔離政策の歴史、国賠訴訟後の首

相談話に資料館の充実が盛り込まれたこと等を踏まえ、ハンセン病基本法の理念のもと記憶や歴史の風化を防ぎ、資料や情報を後世に伝え国民に正しい知識を提供する本拠地として、今後ますます資料館の活動が期待されると述べた。

続いて神美知宏全療協会長および渡部尚東村山市長より来賓祝辞があった。神会長はらい予防法廃止と資料館開館を導いた大谷藤郎初代館長を称え、共に、入所者の高齢化と加速度的な減少を前に、将来構想の問題等と同時に、資料館の意義がますます増大していると述べた。

渡部市長は二〇〇七年のリニューアル直後に様々な批判を受けつつも資料館が成長してきた姿を振り返った。また市と多磨全生園の歴史的なつながりと共に、現在市立の小中学校が当館を人権学習の場としており、今後東村山市は資料館と共に歩んでいきたいと述べた。

次に運営委託団体挨拶として坪井健司日本科学技術振興財団監事より、資料館の歴史の概略と、正しい科学的知識を伝えるという立場から運営を受託し、職員の待遇改善や来館者増加に

尽力していること、さらなる充実を目指して努力したいとの抱負が述べられた。

最後に東北新生園入所者自治会からの祝電が披露され、閉会の辞

をもって式典は終了した。当日は突然の大雨にもかかわらず、関係者76名にご参集いただいた。本紙面を以て皆様に改めて御礼申し上げたい。

20周年記念式典に続き 大谷藤郎先生胸像除幕式挙行



右から順に、成田、志田、大谷、神、平沢、紀伊國の各氏

20周年記念式典に引き続いて、「大谷藤郎初代館長胸像除幕式」が当館ロビーにおいて開催された。この胸像は、大谷先生と関わりの深かった多磨全生園入所者自治会が、療養所内の改善・らい予防法廃止・国賠訴訟など、ハンセン病政策における大谷先生の功績を称えるために制作。初代館長でもあるため、当館が自治会から借りてロビーに展示することにした。

成田館長の式辞のあと除幕。続いて志田強自治会副会長が、大

最後に、大谷先生のご息女である大谷すみれさんが、当館が開館した頃から亡くなるまでの大谷先生の様子や自身が幼い頃の入所者との思い出を語り、「父のことを時々思い出してくれたら家族として幸せです」と挨拶した。

胸像は、在りし日の大谷先生のやさしさと情熱を感じさせる。ぜひ一度ご覧下さい。

資料館の活動について議論する参集者



進の6点と説明した。参集者の発言を以下に記す。

鮎京参集者は送迎バスサービス定着を評価、その継続を要望、さ

第9回運営企画検討会 設置根拠と組織の整備、収蔵庫増設などを討議

5月16日(木)第9回国立ハンセン病資料館等運営企画検討会が、航空会館にて開催された。議題は、資料館の平成24年度事業実施状況及び平成25年度事業計画である。資料館は平成25年度の重点事業を、開館20周年記念事業の開催、春季・秋季企画展の開催、各園資料調査(実物資料)報告書完成、各園資料調査(文書)開始(3ヵ年計画の1年目)、重監房資料館の開館への協力、収蔵庫増設計画の推進の6点と説明した。参集者の発言を以下に記す。

鮎京参集者は送迎バスサービス定着を評価、その継続を要望、さ

らに情報センター機能の強化を要請した。山口参集者は文書調査の方針について確認し、増田参集者はホームページのキッズコーナー充実を評価、見学プログラム作成のために利用者アンケートの実施を提言した。横田参集者は国内のみならず国際的に資料館活動を知ってもらうための計画立案を要望した。御参集者は春季企画展を見た子供たちが誤解しないよう配慮を要望した。

鈴木参集者は、資料館は永遠に存在する施設のはずなのに、設置根拠や組織が未整備、運営企画検討会の位置づけ共々改善の必要があると意見を述べた。組織整備に関連して神参集者は、学芸員の身分保障(国家公務員化)を行うべきだと厚労省に要請した。

半田参集者は、資料館リニューアル後に入館者が微増していることを評価した上で、アクセスが悪い資料館の広報には厚労省のバックアップが必要だと述べた。さらに資料保存は博物館の根幹的機能なので、収容力が限界に達した収蔵庫の増設は必ず実現すべきだと思見した。収蔵庫に関しては神・佐川参集者も言及し、佐川参集者から資料収集実態の補足説明があると、それを受けて半田参集者が資料館の資料収集は今がピークであり、手狭だからといって収集を控えるような愚は避けるべき。収蔵庫の整備がすぐには無理でも、それまでをつなぐ保管場所の確保が大切だと補足した。

6月21日午後2時から都道府県会館で、平成25年度ハンセン病問題対策協議会が開催された。全原協・全療協・退所者の会・弁護士からなる統一交渉団と厚生労働省との、年一回の協議の場である。

協議事項は例年、謝罪・名誉回復について、社会復帰・社会内生活支援、在園保障、真相究明、将来構想の5つに大別され、その年ごとに解決すべき課題がそれぞれ取り上げられている。当館に関する事項もたびたび協議され、過去には全園の資料調査実施や学芸員の待遇改善などが決まっている。

今年度は収蔵庫の増設が取り上げられた。鮎京眞知子弁護士から収蔵庫の収容力が限界に達している、増設のための費用を組む



正面厚労省と、右から順に弁護士・退所者の会・原告団・全療協

ハンセン病問題対策協議会 定員削減問題で激論 資料館収蔵庫増設・学芸員配置も要求

よう要求があった。それに対し山本尚子疾病対策課長が、資料保存の必要性も収蔵庫の現状も認識している。外部の専門家の意見も聞きつつ、平成26年度予算で確保できよう努力すると述べた。

また近年各園で設置が続く資料館に、学芸員や図書館司書など専門職を配置することも要求された。山本課長は、啓発や資料調査等に学芸員が必要なことはわかっており、各園からも配置を求める声がある。

要求実現に向けて 平沼議懇として再発足

5月15日(水)午前10時より衆議院第二議員会館第4会議室において、ハンセン病問題の最終解決を進める国会議員懇談会が開催された。昨年の総選挙で川内博史会長が落選したため、新役員を決定するために開かれたもの。

榎木事務局長の司会で冒頭に江田五月顧問が挨拶して、新会長に平沼超夫衆議院議員(維新の会・岡山)を推し、次に平沼新会長が挨拶。副会長細野豪志(衆・民主・静岡)、事務局長森山ひろし(衆・自民・鹿児島)、事務局次長玉木雄一郎(衆・民主・香川)、顧問江田五月(参・民主・岡山)の各議員

出席議員や各支部代表からも、それぞれ自己紹介があり、最後に平沼新会長より要請内容の実現に向けての決意表明が行われた。

出ている。歴史的建造物の保存等に関する検討会の議論も踏まえ、できる範囲で努力すると回答した。ところで今回最大の課題は、療養所職員の定員問題だった。統一交渉団は、ハンセン病に特有の後遺症のため看護・介護に人手が必要だとして、国家公務員の定員を削減する閣議決定から、療養所を除外するように求めた。また賃金職員の正規職員化、退職者の後補充実施、新規採用抑制の緩和も要求し、実現しなければ全国の入所者はハンストや座り込みも辞さないと表明した。そして7月を目処にまず厚労大臣と、さらに総理大臣との面会を求めた。

を推薦し、全会一致で承認された。つづいて全原協の榎雄二会長、全療協の神美知宏会長より平沼会長へ要請書が手渡された。要請の内容は①国家公務員の定数削減計画から国立ハンセン病療養所職員を除外すること②賃金職員の早期定員化に向けての長期計画を策定すること③医師・看護師定員の充足を図ることなどで、徳田靖之弁護士代表からも要請書の説明が行われた。

出席議員や各支部代表からも、それぞれ自己紹介があり、最後に平沼新会長より要請内容の実現に向けての決意表明が行われた。

春季企画展

「二遍聖絵・極楽寺絵図にみるハンセン病患者」

展示解説、講演会も実施

当館では、5月11日(土)より

春季企画展「二遍聖絵・極楽寺絵

図にみるハンセン病患者」中世前

期の患者への眼差しと処遇」を

開催している。新聞やテレビで報

道されたこともあり、多くの方々

に企画展を見に来ていただいでい

る。企画展を知って初めて資料館

を訪れ、併せて常設展示を見るこ

とで「初めてハンセン病問題に出

会った」「知らなかった、衝撃を

受けた」という方は少なくないよ

うだ。ギャラリートークを2回(5

月18日、6月15日)行ったが、参

加者とそのような会話がもて、企

画者としてうれしく思っている。

7月20日(土)2時より3回目の

ギャラリートークを行う予定であ

る。是非ご参加いただきたい。

また6月1日に付帯事業として、

「極楽寺境内絵図」(鎌倉市指定文

化財)の所蔵者、霊鷲山感応院極

楽寺のご住職・田中密敬氏をお

招きして、第1回講演会「極楽寺

境内絵図を紐解く」を開催した。

田中氏には、ビデオ・スライドを

駆使して、極楽寺と忍性菩薩とハ

ンセン病患者との関わり、極楽寺

設立の時代背景、極楽寺境内絵図

の見方について、丁寧に解説して

いただいた。2時間に及ぶ講演に

なつたが、集まった90人の聴衆は

最後まで熱心に田中氏の話に耳を

傾けていた。

そして6月22日(土)から2週

間(7月5日(金)まで)、「二遍

上人縁起絵」の实物(神奈川県指

定重要文化財)を藤沢市遊行寺の

ご厚意で展示した。本物の迫力は

さすがである。ウォールケース内

の「縁起絵」を前に、議論をする

小グループ、腕組みをして絵図を

じつと見つめる人などが数多く見

受けられた。

会期は残すところ一か月となつ

たが(8月11日まで)、7月27日

(土)には、遊行寺宝物館館長の

遠山元浩氏をお招きしての第2回

講演会「二遍聖絵の世界」を計画

している。多くのスライドを用い

て一遍の思想、時宗の教えの特長

、

講演する田中密敬氏

講演する田中密敬氏

講演する田中密敬氏

講演する田中密敬氏

講演する田中密敬氏

講演する田中密敬氏

講演する田中密敬氏

講演する田中密敬氏

講演する田中密敬氏

講演する田中密敬氏

講演する田中密敬氏

講演する田中密敬氏

講演する田中密敬氏

講演する田中密敬氏

「名誉回復及び追悼の日」式典

安心して暮らせる療養所実現を碑の前で決意

そして「聖絵」はどう読まれるべきか等々、縦横に語っていた(当館映像ホールにて、午後2時より)。「二遍聖絵の世界」により深く接したいと希望する多くの方々に、遠山氏のお話を聞いていただきたいと思う。皆様のご来館をお待ちしております。

6月21日、時折雨脚が激しくなる中、厚労省正面入口脇に建立された追悼の碑の前で、今年度も「らい予防法」による被害者の名誉回復及び追悼の日」の式典が催された。当館からは館長の代理として、黒尾学芸課長が参列した。この式典は平成20年度ハンセン病問題対策協議会における確認事項に基づき、それまで行われていたハンセン病を正しく知る週間に代わり開催されている。

式典ではまず、全国の療養所で亡くなった一六、二九八柱の死没者に対して黙祷を捧げた。その後、田村憲久厚生労働大臣式辞、安倍晋三内閣総理大臣挨拶(代読)、伊吹文明衆議院議長メッセー、披露、平田健二参議院議長メッセー、中曽根弘文ハンセン病対



追悼の挨拶をする神美知宏全療協会長

策議員懇談会会長挨拶と続き、さらに全原協、全療協各支部長、遺族らが加わり碑に献花を行った。その後、平沼赳夫ハンセン病問題の最終解決を進める国会議員懇談会会長挨拶、遺族代表宮里良子氏の体験談、御雄二全原協会長挨拶、神美知宏全療協会会長挨拶があった。

ここ数年来ハンセン病療養所では、国家公務員の定員数を削減する閣議決定の影響などにより、看護師や介護員の数が減り、入所者の日常生活への深刻な影響が課題になっている。

挨拶の中で御会長は、療養所を閣議決定から除外するとの回答を、安倍総理大臣から直接もらいたい。それができなければハンストに入ると宣言した。また神会長も、定員削減方針からの療養所の除外、退職した職員への補充、医師の欠員解消、期間業務職員の待遇改善などについて、安倍総理の回答を求

め、納得できなければあらゆる手段をとると表明した。そして長年の運動の成果の上に安心して暮らせる療養所が実現できたと、先に亡くなった先輩たちの御霊に報告したいと述べた。式典は予定時間を越え、2時間半近くに及んだ。

ハンセン病市民学会
熊本で開催

ハンセン病市民学会の第9回総会・交流集会在、「いま、いのち」の意味を問う!」を全体統一テーマとして、5月11日、12日の2日間にわたり熊本市で開催された。

初日は熊本県立劇場を会場として、総会と交流集會が行われた。総会では、熊本医科大学(現熊本大学医学部)が九州療養所(現菊池恵楓園)入所者の遺体から骨格標本を作製していた問題に対する緊急アピールが採択された。交流集會は、第1部「戦前と戦後の無らい県運動を検証する」と、第2部「私たちが再び加害者の立場に立たないために」のパネル討論が行われた。

2日目は会場を菊池恵楓園に移し、「療養所では入所者の人権をどう守るか」等の4つの分科会と、特別企画「ミナマタからハンセン、そして未来へ」が行われた。さらに、恵楓園内のフィールドワークやハンセン病関連の史跡をめぐるバスツアー等が催された。今回の総会には群馬県草津町で開催される。

講演する日野原重明先生



神谷美恵子医師の生涯と功績を、自身の医師としての思いと重ねながら話された。その一〇一歳とは思えないほどの力強いスピーチは、約三百人がつめかけた会場を驚かせるとともに感動させた。

神谷美恵子医師は一九一四年に岡山市に生まれた。著書の『生きがいについて』『こころの旅』は広く知られる。一九五八年から一九七二年まで長島愛生園の精神科に勤務する中で経験によって、これらの著書が生み出された。

日野原先生は、神谷医師が『生きがいについて』という著書の中で、「人間が最も生きがいを感じるのは、自分がしたいと思うことと義務とが一致したときだと思われ」と述べていることを紹介し、この著書に感銘を受けたと話された。また神谷医師の日記にあるように、体験からにじみ出た思想、生活に密着した思想でなければならぬということ述べた。

最後に日野原先生は神谷医師の生き方を通して、病む人に奉仕の気持ちで関わることも、また自らの生きがいにもなることと述べ、人との関わり合いの大切さを強調された。

講演会の最後には、司会を務めた当館語り部の平沢さんが、日野原先生は現在もいのちの大切さと平和を伝える「いのちの授業」を子ども達に向けて行っていることを紹介し、自身の語り部活動と重ねて、子どもを始めとする多くの方に生きる意味を伝える大切さを訴え、本講演会の幕を閉じた。

開館20周年記念日野原重明先生講演会

300人が全生園コミュニティセンターを埋める

神谷美恵子医師の生涯と功績を、自身の医師としての思いと重ねながら

生活に密着した思想でなければならぬということ述べた。

開館20周年記念展

一存在意義を継ぐために知る、活動の記録一

一連の20周年記念事業開催期間中、ギャラリーで記念展示を行っている。一九九二年の設立準備段階から今日までの活動を、写真50点と発行物や文書などで追う。

当館は一九九三年、高松宮記念ハンセン病資料館として開館した。藤楓協会が創立40周年記念事業として計画したのが直接のきっかけだが、建設資金調達や資料の収集・展示など、実務面では多磨全生園を中心とした入所者の努力に多くを負った。

一連の20周年記念事業開催期間中、ギャラリーで記念展示を行っている。一九九二年の設立準備段階から今日までの活動を、写真50点と発行物や文書などで追う。

開館から15年目の二〇〇七年には、国賠訴訟の結果拡充を果たし、館名も国立ハンセン病資料館と改めた。資料保管に適した環境の収蔵庫設置、全国各園での資料所在調査の実施、展示図録・研究紀要等の発行など、博物館施設らしい活動も少しずつ増えてきた。

20年前の設立時に入所者が意図した資料館の目的は、「入所者の生きた証を残すこと」と「社会に同じ過ちがくり返されないよう訴

える」ことだ。これらは今後何が起こしようとも、当館の核心として維持し続けなければならない。そのことを再確認する機会としたい。



開催中の20周年記念展



医政局長交渉

全療協の平成26年度予算要求統一行動が6月3日・4日に行われ、

平成26年度予算要求交渉 全療協が重大な決意表明

3日午前は戦術会議、午後は施設長協議会交渉が行われた。

神会長は「今年は職員定員問題に決着をつける。厚労大臣、安倍総理にも面会を要請しているが、場合によってはハンスト、座り込みなどの実力行使に入る。すべてが不調に終わった時は責任をとって会長を辞める。」との決意表明を行っているが、各支部代表も「会長の指示があれば直ちに実力行使に入る。中央交渉団も厚労省に座り込む。」と決意表明をした。

戦術会議で神会長は「21日のハンセン病問題対策協議会が一つの

山場だ。各支部はそれまでに実力行使態勢を確立してもらいたい。」と要望。各代表はそれを受け入れた。その後藤崎事務局長より経過と情勢の報告があり、重点要求項目として①ハンセン病基本法の完全実施②閣議決定による国家公務員の定数削減からハンセン病療養所を除外させる③賃金職員の定員化を促進させる④医師の増員対策に積極的に取り組ませる⑤欠員不補充と外部委託に反対し、定員による補充を要求する。以上五項目を決定した。

4日午前の健康局長・疾病対策課交渉、午後の医政局・国立病院課交渉では、本部・支部代表から積極的な発言があったが、回答には限界があることが感じられた。